

集団の中で安定した行動がとれる子

～自分のペースで根気よくすすんでからだを動かそうとする子～

1. 対象児（K・T、高2女子）のプロフィール

(1) 障害名 ダウン症

(2) 生育歴

- ・昭和48年10月26日生（16歳11か月）、出生時体重3048g、前早期破水、生まれてからすぐに泣かなかった、ミルクもあまり飲まなかった、離乳5か月頃から開始、首のすわり7か月、歯のはえはじめ19か月、歩きはじめ16か月
- ・幼稚園1年、本校小学部・中学部を経て現在へ至る。
- ・先天性心臓障害（V. S. D疑）と診断される。（昭和48年12月7日）
- ・父、母、祖父、祖母、兄（別居）の6人家族で、教育熱心ではあるが、多少過保護な面のある家庭環境である。

(3) 本生徒の実態

①運動能力テスト（「資料編」参照）

②体力テスト（「資料編」参照）

③諸検査 WISK-R 35以下

津守式乳幼児発達検査 運動6歳6か月、探索6歳6か月、社会5歳5か月
生活習慣7歳、言語6歳6か月

④性格・行動上の特徴

- ・自分の興味あることや、好きなことには大変意欲的に取り組み（特に音楽等のリズム的表現）みんなの前で発表するなど積極性がみられる。
- ・日常生活全般に渡って、自分の苦手なことや嫌なことに取り組もうとせず、皆と同じ行動がとれないことがある。また、苦手なことでも、取りかかりで気遅れしてしまったことについては、なかなかさっと取り組めない。
- ・体力が弱く、少しの運動でもすぐに疲れてしまう。力の配分ができず、初めから全力を出しきってしまい、最後まで根気が続かないことが多い。また、ちょっとでもえらいと「もう、えらい」とあきらめ、座りこんでしまう傾向がある。
- ・自分なりに納得しないと行動に移さないところがあり、いつもとパターンが変わったりすると尻ごみをしてしまう。しかし、班長になったりして活躍できる場面を設定したり、一度やる気になると集中して取り組める。
- ・文章を書くことを好み、休憩時間には自分の書いた作文を読みかえしていることが多い。

2. 各場面での実践例

(1) 保健体育 <Aグループ>

①ねらい

- ・運動経験を増やし、からだを動かす喜びや、その運動の持つ楽しさを味わう。
- ・すすんで運動に取り組み、運動量を確保して基礎体力をつける。

②方針と手だて

- ・めあてを持たせて意欲的に取り組ませ、がんばったという充実感を体得させる。
- ・楽しんで運動に取り組めるように雰囲気盛り上げたり、指導段階を細分化してスモールステップを1つずつクリアさせ、できるようになった喜びを味わわせる。
- ・号令をかけるなどみんなをまとめる役割を与え、リーダーとしての自覚を持たせる。

③実践例

※なわとびにおけるK・Tの変容例

昨年度の実態	主な手だてと配慮	10月の実態
長なわとびの大波小波では、自分でタイミングをとってなわに入りとべた。2人とびになるとすぐにきれてしまった。	むかいあわせになって、手をつないで「1. 2. 3…」と、かけ声をかけながらとばせる。	ジャンプのタイミングが合った相手であれば、リズムをとりながら10回までは切れずにできるようになった。
回旋とびでは、勢いをつけて遠くから走ってきて、通りぬけてしまい、とべなかった。	ジャンプの位置を固定し、それにあわせて、なわを回すようにし、まず回旋とびを経験させる。	回旋とびをこわがらず、10回できるようになったが、まだ自分からタイミングをとってなわに入ることはできない。
短なわとびには、すすんで取り組もうとしなかった。	短なわとびの様々な種目の示範を教師がやってみせる。	「かっていい。やってみたい。」という気持ちになり、すすんで短なわとびに取り組み、肩まわし両足一回ずつとびで20回できた。

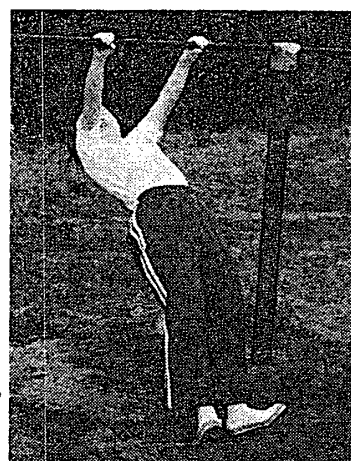
(2) 養護・訓練 <bグループ>

①ねらい

- ・いろいろな動きを経験し、調整力や筋力を高める。

②方針と手だて

- ・毎日の活動をパターン化し、見通しを持って次の運動に取り組ませるようにする。
- ・腹筋→築山ののぼり下り（3往復）→平均台→鉄棒のぶらさがり→斜めけんすいの練習
- ・「逆上がりできるようになろう」を合言葉に、その為には腹筋や腕の力などを鍛えなければならないことを確認しあい、がんばろうという意欲を高める。



斜めけんすいをするK・T

③変容例

5月半ばまでは、激しい落ちこみがあり、遅れてきたり、みんなと一緒に活動できることが少なかった。しかし、メニューが決まっているので、遅れてきても一人で黙々と決められたメニューをこなし、途中でやめたりせず、最後までやり遂げることができるようになってきた。

逆上がりにおいては、初めは足のけりが弱く、鉄棒にあまりからだを引きつけられなかった。しかし、実践を重ねるにつれて、勢いよく足をけり上げるようになり、腰の位置が随分高くまで上がるようになってきており、手を添えるだけの補助でできるようになってきた。

平均台では、低い方であれば1人で渡ろうとするが、高い方になると、こわくて補助を要求する。バランス感覚においては、目立った変容はみられなかったが、筋力については、腹筋の回数が20回に増えたり、すすんで斜めけんすいをしようとしたりするなど、取り組む時間も長くなり、挑戦しようという意欲がうかがえた。

(3) 職業〈製作グループ〉

①ねらい

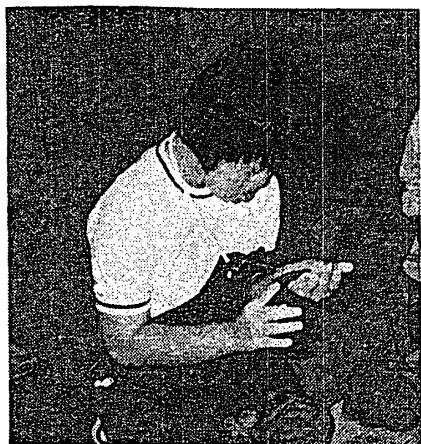
- ・遅刻をしないで自分1人で陶芸室や被服室へ来ることができるようになる。
- ・自分の作りたいものではなく、与えられた課題の製作をすることができる。

②方針と手だて

- ・授業前に、遅れないで来るように声かけはしておくが、呼びに行ったりせずに自分からすすんで教室に来るのを待つ。また、遅刻した時は報告することを義務づける。
- ・製作の方法が理解できない時は、手順を追いながら隣で一緒に作業をしたり、うまくできるような方法を示範してみせる。
- ・時間の終わりには必ず作品の評価をして賞賛するとともに、直した方がよい点も挙げ、次時の課題として意識づけをする。

③変容例

※陶芸（花びんづくり）におけるK・Tの変容例



花びんを作るK・T

4 月 の 実 態	10 月 の 実 態
・迎えに来るのを教室で待っていて自分からは来ようとしなない。	・「いいのを作る」と言って、一番に陶芸室に来ることが多くなった。
・課題になかなかとりかかろうとせず、おだんごばかり作っていた。	・すぐに課題の製作にとりかかるようになり、何個も作り終えた時のみ、おだんご作りをするようになった。
・ひもの太さや長さを考えず積み上げるので、すきまが多く、形もくずれやすく、最後には丸めてしまうことが多かった。	・比較的太さが一樣な長いひもが作れるようになり、指で押さえつけず、高く積み上げるようになった。めったに作品をつぶすことはなくなった。すきまが多いと使えないことを理解し、意識してすきまを埋めようとし始めた。

(4) 日常生活指導

①ねらい

- ・苦手なことや気遅れすることであっても、座りこむなどの拒否行動をせず、皆と同じ行動がとれるようになる。

②方針と手だて

- ・自分が今、何をすべき時なのかを言い聞かせたり、本人に考えさせたりし、自分からやる気になって取り組むのを待つ。
- ・体力もついてきたこともあり、なるべくみんなと一緒に活動できるように、体調が悪い時以外は見学等を許可するなどの特別扱いをしない。
- ・上記のような2通りの指導を時と場合に応じて使い分けて行うようにする。

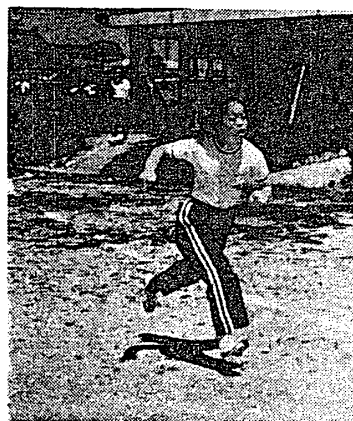
③変容例

※朝の活動へのとりかかりにおけるK・Tの変容例

持久力に劣り、マラソンは苦手なので、少し体調が悪いくらいでも教室に残っていたり、見学や記録係をしようとし、強引にさせようすると立ち直れず座り込んでしまう。



毎日の積み重ねにより、体力がついてきて、少しのことであれば耐えられるようになってきた。それに伴い、マラソンへの取り組みも意欲的になり、めあての本数も4本から6本へと増えた。自分なりに、みんなと同じことをしなければと考え、一度は抵抗しても、以前より立ち直りが随分早くなった。



10分間走をするK・T

3. 考察及び今後の課題

本生徒は一学期に児童生徒会の生徒会長に自ら立候補し、見事に当選して大役を果たした。いもう

え大会や、七夕集会の実行委員会等の自治活動への参加は初めてだったので、大丈夫だろうかという不安もあったが、大勢の人の前でのあいさつや、会の進行・準備等、回を重ねるごとに要領もわかり、自信をつけたようである。また、生徒会長であることが励みになり、学校生活のいろいろな面で大きく成長したようにも思われる。以前に比べ、落ちこんだ後の立ち直りが早くなり、少々のことにはくじけず、みんなと一緒に遅れず行動できるようになってきている。その根底には、基礎体力の向上があることも忘れてはならない。今後も機会をとらえて様々な活動へ挑戦させることにより、自信をつけさせていきたいと考えている。

(文責 秋田 易子)



集会であいさつをするK・T